

通し番号	4388
------	------

分類番号	20-01-11-06
------	-------------

(成果情報名) 生ごみの堆肥化と地域内リサイクルの運営ポイント
[要約] 都市地域において消費者と連携した生ごみの堆肥化と農業利用のリサイクルシステム形成には、生産物のフィードバックが重要な因子である。生活者と農業者の交流活動は、ごみ処理意識の向上や販路の確保と共に、地域の農業理解と継続したリサイクルにつながっている。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・経営情報研究部、農業環境研究部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ごみの排出削減対策として、生ごみ等の有機物の堆肥化と農業への利用を進めるリサイクルの仕組みを提案するため、県内で生ごみリサイクルの活動を行っている団体を調査し、都市農業の神奈川県らしい、地域リサイクルシステムの成立要因を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 市民活動が主体となった家庭生ごみの堆肥化と農家と連携した農業利用（市民・農業連携型）では、参加者への新鮮な農産物の供給体制の構築が継続するためのポイントとなっており、交流会や農業体験を通して農業者と生活者が相互に理解することにより、リサイクルや有機資源活用の意識向上が見られる（図1）。
- 2 業系の生ごみを利用した農園利用方式の市民農園運営（NPO運営型）では、生ごみ堆肥による土作りと農業者の栽培指導と共同作業の取り組みなどが参加型活動を長く継続するためのポイントに、また、新鮮な農産物の収穫が市民の参加者の満足度を高める要因となっている（図2）。
- 3 いずれの活動も地区限定モデル的な取り組みであるため、今後、地域リサイクルへと拡大するには、生ごみリサイクルの各段階で、生活者と堆肥利用者間の調整と人材・労力を含めたコーディネート体制の整備が必要である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 各団体には生ごみの資源化から農業利用までの活動全体を把握・運営している人材が存在しており、地域内リサイクルの円滑な運営のキーパーソンとなっている。
- 2 生ごみの堆肥化と農業利用へのポイント、運営への留意点等を取りまとめ、リサイクルに新たに取り組む際の参考資料としてリーフレットを作成。当所HPよりダウンロード可能（pdfファイル）。

HPアドレス：<http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/keiei/2009/mottorecycle200907.htm>

[具体的データ]

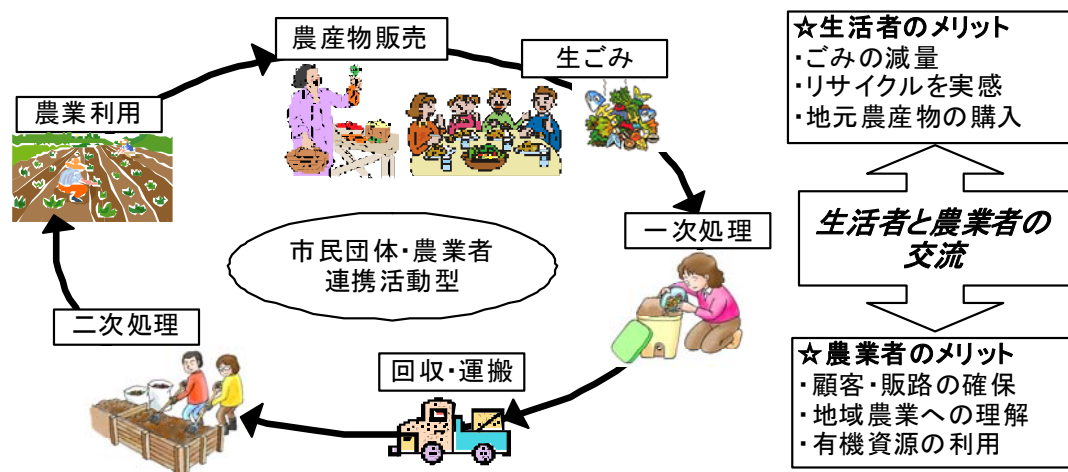


図1 家庭生ごみの堆肥化と農業利用のリサイクル活動概要図

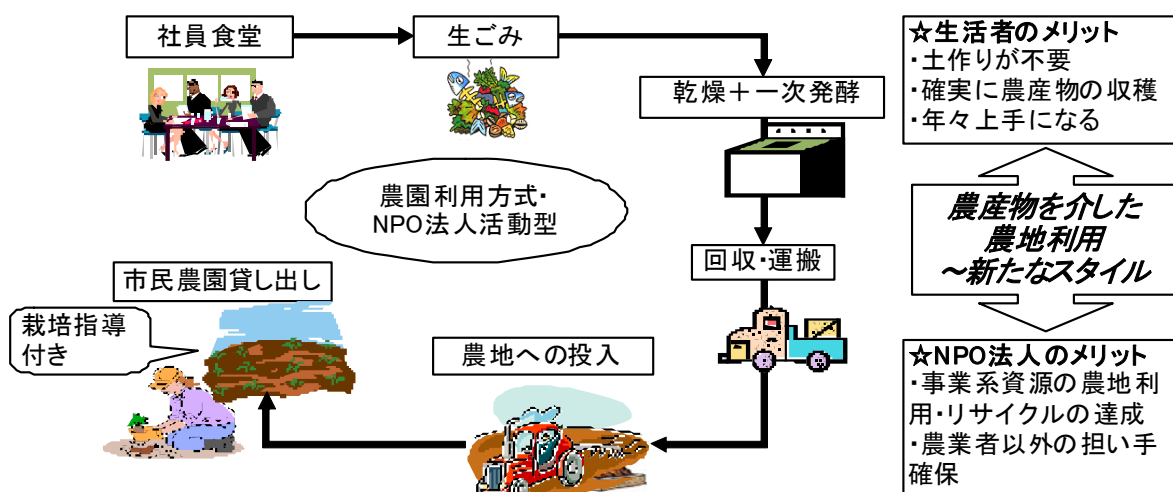


図2 事業系生ごみの堆肥化と農地利用のリサイクル活動概要図

表1 地域リサイクルの継続活動のためのコーディネート機関の役割

1 生ごみの堆肥化	2 回収・運搬	3 農業利用	4 市民農園利用
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活者が参加しやすく、継続出来る仕組みづくり(リース事業や勉強会)</li> <li>不純物を混入防止、分別の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な処理物の回収</li> <li>ごみ集積場を活用した回収システムづくり</li> <li>堆肥保管場所や発酵施設の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の募集</li> <li>適正利用の研修会</li> <li>交流会開催による信頼関係の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地の流動化</li> <li>農業アドバイザーの設置</li> <li>作付け計画の作成</li> <li>参加者向け勉強会の開催</li> </ul>

[資料名] 平成20年度試験成績書(経営情報)(農業環境)  
 [研究課題名] 食品残さ等の効率的堆肥化技術の開発と施用基準の策定  
 [研究期間] 平成19年~20年  
 [研究者担当名] 鈴木美穂子・竹本稔